

I A C 理事会出席報告

平成 19 年 2 月 5 日

第二部会員 唐木英明

1 会議概要

1) 名称

(和文) 第 7 回 IAC (InterAcademy Council) 理事会

(英文) 7th Annual Meeting of the IAC Board

2) 会 期 2007 年 1 月 29 日 ~ 31 日 (3 日間)

3) 会議出席者

金澤一郎会長、唐木英明第 2 部長 (兼国際委員会副委員長)

須江雅彦事務局次長

4) 会議開催地

オランダ王立芸術科学アカデミー (在アムステルダム)

5) 参加状況 (参加国数、参加者数、日本人参加者)

IAC 理事会メンバー (15 ケ国)、スペシャルゲスト等、計約 30 名

日本人参加者は日本学術会議 (SCJ) からの派遣のみ

6) 会議内容

・日程及び会議の主な議題

1 月 29 日 (月)

Welcome by Frits van Oostrom, KNAW President

Welcoming remarks - IAC Co-Chairs (米国・中国)

Academies' Input into June 2007 G8 Meeting in Germany

Volker ter Meulen, President, German Academy of Sciences Leopoldina

1 月 30 日 (火)

Annual Report of the IAC Executive Director

Report from

ICSU - Goverdhan Mehta, President

IAP - Mohamed Hassan

IAMP - Guy de The, Co-Chair

CAETS - Achiel van Cauwenberghe, Past-President

" Global water issues " -- potential new IAC study

Board discussion, authorization of next steps

" Surveillance of infectious diseases " -- proposed new IAC-IAMP study

Board discussion, authorization of next steps

"Strengthening the role of African universities in science, technology, and innovation" -- proposed new IAC study

Board discussion, authorization of next steps

1月31日(水)

"Transitions to Sustainable Energy Systems" -- review of current IAC study

- Status report and briefing on draft study conclusions and recommendations
- Proposed report dissemination and publicity plan

Board discussion, authorization of next steps

"Measuring Progress in Building Global Capacities in Science and Technology"

Discussion of launching new joint IAC-IAP project on improving S&T indicators worldwide.

"Women for Science"

The Board hears presentation on release and follow-up of IAC report.

"Financial Report of the Executive Director and Finance Committee"

"Breakout Sessions"

Group I: Cooperation among IAC, IAP, IAMP, CAETS, and ICSU

Improving consultation and cooperation

Terms of reference for considering a joint IAC-IAP-IAMP secretariat

Group II: Funding of IAC programs and administration

Identification of potential funding sources for approved future IAC studies

Creating a new IAC Advisory Group to develop an IAC Endowment Fund

Reports from Breakout Groups I and II

& Final remarks by Co-Chairs and members of the IAC Board.

・審議内容・成果等

初日は夕刻から会議が始まり、ドイツ G8 における課題と、アカデミーからの提言に関する議論が行われた。

2日目は IAC 年次報告や ICSU、IAP 等関係国際学術機関の活動報告の後、「世界の水問題」、「感染症監視体制」、「アフリカの大学強化」の3つの新規プロジェクトの提案に対する議論があり、すべて認められた。

3日目は、現在進行中の「持続可能エネルギーシステム」に関するプロジェクトの中間報告、「S&T 指標の改善」に関する新たなプロジェクトの立ち上げ、「科学と女性に関する報告」

のフォローアップ、そして財務関係の報告および議論が行われた。

2. 会議の様相

日本学術会議は「社会のための科学」を目標に掲げているが、IACもまた地球的な政策案件について科学的な助言や勧告を行うために、2000年2月にダボスでのアカデミー会長会合で提案され、同年5月の東京でのIAP運営委員会の際、正式に設立された。その後、オランダ王立芸術科学アカデミー(KNAW)が事務局となり、毎年1月に15のアカデミーで構成する理事会が開催され、今回が第7回会合である(日本は設立当初から理事会メンバー)。

G8サミットに向けた各国アカデミーの共同声明が恒例化したこともあり、初日からG8ドイツに向けての議論が行われ、IAC理事会とG8との連携、IAC理事会メンバーアカデミーの機動性・柔軟性を感じた。

初日(1/29)

Oostrom KNAW会長の挨拶、Lu共同議長より事務局への謝辞、会議出席者全員の自己紹介の後、ドイツG8の議論となった。

<ドイツG8>

- ・ 今年のIAC理事会の特別ゲストであり今年のG8学術会議ドイツ会合のホストであるドイツ学術会議LeopoldinaのMeulen会長より現時点での取り組み状況の説明があり、テーマとしてはInnovation and Intellectual property right(イノベーションと知的財産権保護)及びClimate protectionについてEnergy efficiencyの観点から取り上げられることを考えており、両方とも、サミットのテーマでもあるアフリカについてリンクさせるように工夫したい、との説明があった。
- ・ 米国(Bruce Alberts共同議長)より、エネルギーは今年IACのレポートが出ること、知的財産権については科学者と産業界では見方が異なるので科学者として提言する意義があるとの指摘があった。また、Human Frontier Science Programで基礎科学を取り上げているが、このレポートへのサポートも重要との発言があった。
- ・ 英国からは、声明の有効性を増すために、内容の焦点をさらに絞ることが重要ではないかとの意見表明があった。
- ・ また、3日目に再びG8の議論に及んだ際、翌年の日本のサミットで取り上げるテーマとの関連につき質疑があり、金澤会長より08年日本開催のG8に向けて、テーマの一つには京都プロトコル後に向けての取り組みを考えているとの意見表明を行った。
- ・ G8アカデミー声明成功のためには主催国アカデミーの前もってのサミット担当部局との連携が欠かせないことが強く印象に残った。

2日目(1/30)

アジェンダに従い進行。2日目は ICSU、IAP 等関係機関の活動報告と、新規プロジェクトの提案に対する議論が中心であった。

- John Campbell IAC 事務局長より、IAC エネルギーパネルのレポートは6月1日に公表予定との報告があった。
- Metha ICSU 会長より、ICSU の活動状況について資料に基づき、社会科学の視点も重視していること、地方事務所の開設、75周年記念として4月に行う ICSU Young Scientists Conference は、参加者である各国若手科学者のみで運営されるというユニークなものであり、成果は来年の理事会で報告したい、等の報告があった。
- CAETS (International Council of Academies of Engineering and Technological Sciences) の Cauwenberghe 前会長より、今年10月に「環境と持続的成長」をテーマとして World Congress を東京で開催する予定であり、IAC から一名招待されたとの報告があった。

< 世界の水問題 >

- 水をテーマとした新プロジェクト提案について、Metha ICSU 会長より、飲み水とそれ以外の水は性質が異なる（飲み水は、きれいな水を供給できるかという技術的問題）ので、分けるべきではないか、との意見があったが、プロジェクト提案者の Xia 教授（中国）は、「水の問題は複雑なので、全体をみながら問題を考えていく必要がある」と答えた。その他、国際機関（WHO, UNESCO）などとの関係、資金源をどうするか等の質問があった。
- これらの議論を踏まえ、Bruce Alberts 共同議長より、「各国持ち帰ってまた検討したらどうか」との提案があったものの、John Campbell 事務局長より「春には study panel をスタートさせたい」との発言があったため、共同議長より Small expert group をつくり検討することが提起され、承認された。Lu 共同議長より、「SCJ には本プロジェクトに是非参加してほしい」との発言があり、金沢会長が同意した。

< 感染症監視体制 >

- 資金源の目処が立っていないこと（WHO からの資金提供は現状では困難）、サーベイランスは重要であるが、信頼性のあるサーベイランス実現には、各国政府のサポートを得ることが重要、との指摘があった。
- 共同議長より Expert panel を作るのと並行して資金源を探すとの提案が提起され、可決された（SCJ は棄権）。

< アフリカの大学の強化 >

- アフリカの大学について、私立大学の多くは収益のためであるとの Hassan TWAS 事務局長の説明に対し、英国より、アフリカの大学は学生数も多く研究者にとって恵まれない

環境との意見があった。資金源について、Campbell 事務局長 が本プロジェクトにはスウェーデン、カナダ、オランダのアカデミーも関心を示していること、米国より、資金源までは未定としつつも、アフリカの大学についての関心が高い人・組織は多い等、本プロジェクトを支持する意見があった。

- ・ プロジェクトパネルを設置することが提起され、承認された。

3 日目 (1/31)

< エネルギーパネル報告 >

- ・ Goldemberg エネルギーパネル共同議長より、本レポートはエネルギー問題を解決することを目指したのではなく、問題の所在を明確化し、それを政府に示すことを目的としているとの報告があった。
- ・ 質疑応答の後、IAC は、本レポート公表時における世界のメディアに対する戦略を、Resource Media (サンフランシスコにある nonprofit communication 会社) と協力して進めていきたいとの説明があり、同社 Cutting 氏より、メディア戦略について、ダボス会議の例も紹介しながら、事前、公表日、事後の戦略について説明があった。英国より、本レポートは今後数回の G8 においても活用できる程影響力がある可能性があるとの意見があった。また、公表日については、IPCC もレポート公表を 6 月初に予定しており、サミット前の方が世界の関心ははるかに高いので、ドイツ G8 サミット以前には公表すべきとの意見があった。
- ・ 報告公表後のレビューについて事務局より推薦リストが提示され、各国の意見が求められた。SCJ から推薦を行った。

< Women for Science >

- ・ 「Women for Science」(昨年報告書公表)について、金澤会長より、「SCJ は一昨年会員改選にあたり、女性比率 20% との目的を掲げ、達成した。」との発言があった。

< 科学技術指標の作成 >

- ・ 科学技術の指標作成プロジェクトは、今後進めることで承認された。

< IAC の今後 >

- ・ 昼休みを活用して二つのグループに分かれた Breakout ミーティングがあり、金澤会長は資金源に関するグループ II に参加した。
- ・ IAC の今後に関するグループ I では、人事や事務局再編に関する議論が行われた。

次回開催予定 2008 年 1 月末